

令和2年度 第2回北海道 Society5.0 推進会議 開催概要

1 日 時

令和2年8月6日(木) 10:00 ~ 12:00

2 実施場所

北海道第二水産ビル8階 8A会議室

3 出席者

別添「出席者名簿」のとおり

4 議 題

別添「次第」のとおり

5 議 事

(1) 議事1 本日の会議について

・事務局(北海道)から説明(資料1)

(2) 議事2 最近の国の動向について

・事務局(北海道)から説明(資料2)

(3) 議事3 前回会議における意見及び国との意見交換の概要について

・事務局(北海道)から説明(資料3)

(4) 議事4 意見交換① ~新型コロナウイルスへの対応

・事務局(北海道)から説明(資料4)

【委員からの主な意見】

- 感染症対策としてアプリを使用しているが、接触情報しか情報がなく、感染したらどこに連絡すれば良いかなど、もっと利用者がインストールしたくなるような工夫が必要。
- 通知システムも登録をすれば店や道民などが得をする仕組みにするともっと普及するはず。
- コロナ渦において、移動していいのか、悪いのかが不明。みんな会いたいけど我慢している状況が続いており、ITを駆使することで需要に合わせた移動が可能である。過疎地こそやるべき。
- 医療的ケアをする人手が足りないことが問題で、医師も不足していると思うが、看護人材も不足しているということを意識してほしい。
- 看護ロボットの観点でいうと、自動化出来る部分と出来ない部分の棲み分けなどを示したガイドラインが出来るともっと普及するのではないかな。
- 人材の育成・確保は重要でエンジニアの多くは、東京へ行ってしまうので、行政とも連携した仕組みを作りたい。
- 今回のコロナ渦では、物流が重要となっているように感じる。配送作業の自動化が進んだり、規制緩和によるタクシーでの貨物の配送などが可能となる動きがある。
- 知事がもっと北海道 Society5.0 を目指していくとビジョンを発信してほしい。
- テレワークの障壁となっているのは、事務である。ハンコが必要というのが多い。電子契約書に移行しても相手方が対応出来ないことが多々ある。行政側が積極的に行っていくことで変わるのではないかな。

- テクノロジーは入れればいいのかで簡単。事務を変えるとといったイノベーションを起こすことが重要ではないか。
- これからは、個人のスキルが重要視される個人の時代となるのではないかと感じる。個人のやることの積み上げが北海道経済の立て直しに繋がると思うので、副業がもっと広がればいいと思っている。
- 非接触に関わるモノのニーズが増すことが予測されており、物流関係では段ボールのニーズが増えている。
- リアルの世界でのコミュニケーションの重要性も高まっている。
- スマートシティの取組の加速により、通信インフラの重要性は増す。
- コロナの影響で公共施設の指定管理者の収入が減っている。
- 最近のコロナの議論でいうと、批判されないことを無難にということが重要になっており、非常に閉塞感を感じる。
- 締める所と緩める所を意識してデジタル化を進めて欲しい。
- これまでも重要だったがその必要性が増しているのがオープンデータ。
- 個人情報とプライバシーの保護とのバランスが重要。

(5) 議事5 意見交換② ～計画骨子案について

・事務局（北海道）から説明（資料5・参考資料）

【委員からの主な意見】

<短期的、中長期的取組について>

- 人材の育成だけでなく、確保についても記載してほしい。
- この計画は誰にとっての計画なのか。道民に呼びかけるのであれば、やらない人に対してどう働きかけるかを考える必要がある。
- 絵に描いた餅にならないようもっとコンセンサスを取っていく必要がある。
- 今回コロナが急浮上してきて、載せてはいるものの、計画の期間を考えると分けて考えて欲しい。
- 産業において、北海道では観光が重要な産業の1つ。その観点も入れるべき。
- ITを活用することで来道者を増やす観点。例えば、ホテル、旅館であれば、ウェルネス思考を意識して安全安心を担保するなど。
- 少子化対策も重要。
- 基本理念が最も重要で、そこから5つの戦略に落ちていくかと思うが、基本理念との繋がりをもっと見せる必要がある。
- 今がゲームチェンジの時。もっと明るいことをメッセージとして発信する必要がある。
- 攻めの視点で北海道がこれからもっと変わるということを打ち出していきたい。
- これからどんな技術が出てくるか分からないので、個別の技術にフォーカスしても意味がない。何が出てきてもいいようなプラットフォームを作ることが重要。
- 事業者と一緒に行政の事業が作れるようなスキームがあるといい。
- SDGs という観点から持続可能な社会を作ることとコロナ対策を重ねて考える必要がある。
- 図に関して、基本理念を押さえて、3つの基本的な柱に落として、下に2つがあるような気

がする。

- ほとぼりが冷めたら動かなくなるのが行政。
- 道民や市民のための行政という意識は忘れずに。
- 中長期的には基盤整備が重要。ここをどう整備していくのか計画がないことが問題。
- 5Gを活かすための光ファイバー通信網が必要。北海道における通信網の位置づけを載せて欲しい。

<各領域で期待される姿>

- 未来技術を使うときに制度が壁になることがある。これを克服すると起業する人が増える。
- 銀行は法律上、企業を作ってはいけませんが、IT企業のみ可能。金融や民間をどんどん活用する。規制緩和されただけで色々なチャンスがある良い例。
- 北海道で特区を作ってやるというのでもいい。
- 規制緩和について、訪問看護ステーションの立ち上げには、最低でも看護師2名が必要、医師は1名で立ち上げられる。
- 医師と看護師で出来る範疇が違いすぎる。
- 行政が大きな方向性を示して、強いリーダーシップで引っ張ることが必要ではないか。
- Society5.0の実現には、何かを壊すことも必要な場面がある。既成概念にとらわれない発想を進めてほしい。
- 地域によって、システムの使い勝手が異なる。MaaSも大手の業者が地方で使えるかという単なる実験になっているのではないかということもある。
- 下からコツコツ積み重ねるような、地域発の事業がもっと出てきて欲しい。
- IT人材を地方に送って仕組みを作るというのは考えていきたい。
- 新しい技術が出てくる度に、それがあると仕事がなくなるので困るという人が出てきて実装が立ち消えになることがある。これからは先にどう進むかということを考えるべき。
- 持続可能性。経済的な自立ということを考える必要がある。
- 個別最適が必ずしも全体最適になるわけではない。
- 未来の姿を共通意識の下、バックキャストで考えていくことも必要。
- 企業とのマッチングなどが出来るような場が北海道にあるということをもっと発信できれば、可能性が広がる。
- コロナの影響で未来の絵が変わった気がしている。これまではインバウンドがたくさん来て交流人口が増えて、観光が栄えてといった感じであったが、それが揺らいだ。
- 人が流れない社会というのも考える必要があるのかもしれない。構想では、そうした未来を考えていなかった。
- キャッチアップ型ではなく、これは絶対に北海道が取るという分野を見つけて欲しい。
- データをきちんと利用できるようにするべき。
- 北海道はこれで生きる、目指すということを多少リスクがあったとしても書き込みたい。

(6) 議事6 今後の進め方

- ・事務局（北海道）から説明（資料6）